京都市立下鴨中学校家庭科教諭

島田典明さん

自分の生活に興味を持ちつつ楽しんで取り組むことの大切さ

授業で使用された教科書と
先生オリジナルの学習プリント

男性の家庭科教諭として念願の中学校の先生に

私は大学卒業後、学生時代に取得していた社会科教諭の資格を活かし、いろいろな学校で講師として勤務していました。非常勤講師を続けながらも、どうしても中学校の先生になりたくて、社会科の他にも指導できる教科を増やしてみようと考え始めた時、一人暮らしで経験していた家事や料理などに興味がわき、「これはおもしろいな」と思ったのです。そこで、生活に関わる教科として家庭科の免許を取ってみようと思い立ちました。自分が楽しんで教えられる教科、そして生徒たちが生活する上で学んだことをすぐに実践できる教科だということ、それが家庭科教諭を目指そうと思った理由です。

しかし、他府県でですが、家庭科教諭の免許を取得して講師登録に行った際、窓口の方に男性が家庭科を教えるということを理解してもらえず、すんなりと受け付けてもらえなかったことがありました。さすがにその時はショックでしたね。教科に対する男女の偏見が根強いというか…。私自身は〝男性だから、女性だから〟という意識は全くなく、ただ興味を持った教科が家庭科だった、それだけのことだったのですが。

私が中学生の頃はまだ技術家庭科が男女共修となっておらず、男子は技術科、女子は家庭科と分かれていました。今は男子も同じように家庭科を学び、女子も男子と一緒に技術科を学ぶようになっています。教師の私にとってはそれが「当たり前」であり、男子が家庭科に興味を持って取り組む姿は珍しいことではありません。このように、男女が自由に学ぶ機会を得ることができ、「当たり前」の基準が少しずつ変化してきているのを目にするととてもうれしく思います。けれど、まだまだ男性の家庭科教諭や女性の技術科教諭が珍しいとされているのも事実です。教科が持つ男女のイメージがなくなり、男性の家庭科教諭が「当たり前」となる時代が早く訪れることを願っています。

子どもたちには多くの経験を記憶に残る授業を目指して

私が授業で大切にしていることは、「笑いが出る授業」です。楽しんで取り組んだことは子どもたちの意識に残り、一度経験したその記憶はいつか子どもが成長し同じ状況に立った時の自信につながります。そんな子どもにとっての良い経験をひとつでも多く作ってあげること、それが家庭科にとって大切なことじゃないかなと思っています。

また、授業で取り組んだ経験を、自分の生活にどのように取り入れることができるのかを生徒自身にも考えてもらいたい。ただ何となく生きていくのと、食べることひとつをとってもその意味を考え理由を知って生きていくのとでは、得るものは大きく違うはずです。生活をより豊かなものにするにはどうすればいいのかを考え、自分の生活に興味を持って生きることの大切さを感じてもらいたい。授業を通して、また私という人間に出会い関わり合っていく中で、少しでも何かを得て生活を楽しむ方法を学んでもらえればうれしいですね。

島田さんの **これまで**

1997年
佛教大学教育学部社会教育科卒業

1999年～
講師として関西の諸学校で教える

2008年
京都市立下鴨中学校に着任

家庭科の授業で一生懸命説明を行う島田先生。今回の授業は、上皿ばかりを使って食材の正しい計量の仕方を学ぶという内容

message

何事も修業、何事も精進

島田典明

等身大な素の自分を通して子どもたちに伝えたいこと

私は毎年新しく出会う生徒たちに、最初の授業で必ず質問することがあります。それは「男の先生が家庭科を教えることを変だと思う人はいますか?」という質問です。生徒の何人かは恐る恐る手を挙げますが、その答えに対して私はもちろん怒るつもりはありません。しかし、家事や育児というものは男女問わず携わっていかなければならないことですから、少しでもいいのでどういうものかを知ってもらいたい。でも、そういったことを言葉で説明し理解させるのはとても難しい。けれど、男性である私が家庭科を教えることで子どもたちの漠然とした先入観を変えるきっかけになればと考えています。

男性だから、女性だからと区別して道を狭めるのではなく、生徒たちには自分がどうありたいのか、人のために何ができるのかということを、考え続けていってほしいと思っています。